

小高連携 いきいき学習

はじめに

こんにちは、姫路西高校の生徒たちが、地域の小学生たちに学習の楽しさを伝えるため、「小高連携いきいき学習」を2024年12月14日(土曜日)に本校で実施しました。この記事では、講座の様子を写真と小学生へのアンケート、担当した本校生徒スタッフのレポート(いずれも抜粋)を通してお伝えします。

なお、小学生と本校生徒の文の表現を変えているところがあります。

開会行事:本校生徒の司会で進みました。



① 社会:地図と地名からわかる姫路の歴史

[小学生のアンケートから]

「地名は歴史や神話、地形などの情報にもとづいていることがわかった。」



[高校生スタッフのレポートから]

小学生とこんなに話したり、ふれあう機会はないので、とても緊張したが、たくさん話したり楽しく授業ができてよかった。授業に対してとても積極的な児童もいれば、おとなしい児童もいて、どうしたら一緒に話して一緒に授業を深められるのかを考えながら取り組んだ。先生と共に小学生との楽しい授業をすることがこんなに面白いと気づくことができていい経験になった。

小学生のみなさんはすごくいきいきしていて、感想を聞いてみた時も「楽しかった」と言ってもらえてすごく嬉しかった。

② 算数: 数学パズルで遊ぼう

[小学生のアンケートから]

「さいしょはぜんぜんわからなかったけれど友だちやお兄さんたちがおしえてくれてわかったので楽しかったし、うれしかったです。むずかしかったけれどうまくとけたので良かったです。」



[高校生スタッフのレポートから]

小学生はいきいきしていた。積極性がとてもあり、手を止めることを知らなかった。行き詰まったときはほんの少し手がかりをあげると、「あっ」とした表情になり、「わかった！」と嬉しそうにしていた。あのような感情が将来どこまでも大切になるのだろう。

教室移動の際に少し手違いがあったが、他のスタッフに助けてもらい問題なく進行した。やはり、頼れる仲間は重要だと感じた。今回の体験は貴重なものだった。参加して良かったと思う。

人に物を教えるということは、そのことについて完璧に理解しておかないといけないので、難しくはあるが、自分も勉強になるし、分かってもらえると嬉しくなる。

③ 理科:コマを作ろう

[小学生のアンケートから]

「重心ということばの意味が分かりました。どんぐりの重心にうまくじくをさせないとうまくまわらないということが分かりました。」

「重心のことについて学んで、にちじょう生活でもいかしたいと思った。」

「重心と接地点をまっすぐにすることでコマが長くまわった。」



[高校生スタッフのレポートから]

小学生に重心とは何か、どこにあるのかを分かってもらうことは難しかったが、児童の反応を見ながら教えることで理解してもらえた。

私は将来教員を目指しているので、今回のように年の離れた子どもを指導するのは自分にとっても良い機会になった。

④ 体育:ボール運動を楽しもう

[小学生のアンケートから]

「うまくボールをばしっとはじいてゴールにいれるのが楽しかった。」

「楽しく練習すると自然とできるようになって、楽しみながら学習していくのはいいなと思いました。」

「バレーのサーブができるようになって、楽しいしうれしかったです。初めてバレーが出来てうれしかったです。またいきたい！！」



[高校生スタッフのレポートから]

どうしたら小学生に楽しんでもらえるか、またこんな高校生になりたいなと思ってもらえるか考えながら活動するのは難しかった。積極的に話しかけ、褒めることで初めは強ばっていた小学生の顔から緊張の色が消えた気がする。

小学生がどんなふう感じて取り組んでいるのかを考えながら声をかけていくことが大切だと思った。普段関わることがない相手に、どんな顔をしてどんなふうに関わるのか考えて実践できる貴重な機会だった。

体験の中で特に難しいと感じたのは、3人ひと組で来ている小学生を2人組に分けなければならなかった時だ。3人の中の上手な分かれ方や、別の組になった1人のことを考えると、本当に大変だった。

⑤ 音楽:音楽で遊ぼう

[小学生のアンケートから]

「リズムよく、歌って手拍子ができよかったです。早口言葉は難しかったけれど、ぎりぎり言えてうれしかったです。」

「『新人シャンソン歌手の新春シャンソンショー』がとくにおもしろかった。」

[高校生スタッフのレポートから]

今回の体験を通じて考えたことは、何かを教える上で重要なことは教える側自らも楽しむことだということだ。去年も音楽の講座を担当したが、そのときは小学生の顔色を窺いすぎてしまい、自分が楽しめなかったどころか、小学生も気まずそうな表情をしていて、いたたまれない気分になった。しかし今回は自分から笑顔で取り組み、小学生には後からついてきてもらうという形にした。講座の最初は小学生も緊張していてあまり口を開いてくれなかったが、こちら側もあせらず、笑顔で取り組むことで最後には小学生が笑顔で歌ってくれた。本当に嬉しかった。



⑥ 英語:英語で遊ぼう

[小学生のアンケートから]

「クイズを通して、みんなと仲良くなれてよかったです。」

「英語での手紙の書き方が分かった。外国の人とおしゃべりができた。」

「実際に外国人と話したことがなかったので、とても楽しい 1 時間でした。」

「サンタさんに手紙を英語で書けるようになって、うれしかったです。」

[高校生スタッフのレポートから]

一番印象的だったのはサンタクロースに英語で手紙を書くという学習だ。その中に英語が苦手、周りのスピードについていくのが大変そうな小学生がいた。周りの子のようにうまく書けないと落ち込んでいたその子に「ゆっくりでも良いから一緒に考えよう！」と声をかけ、書きたい内容



に合う単語をたくさん出したりしてサポートした。またどのようにして英語に直せばよいか ALT の先生に相談してわかりやすく伝えるように努力した。授業が終わった時にその小学生が「楽しかった！」と笑顔で話してくれた時は本当に嬉しく、やりがいを感じた。

今回の講座を通して自分の知識を、それを必要としている人にわかりやすく伝えるのは難しいことだと実感した。これは実際に自分で経験しないとわからないことだ。今回の経験は私にとって自分をレベルアップする貴重な機会となった。

⑦ 情報:小学生プログラミング教室

[小学生のアンケートから]

「プログラムをくんで思い通りに動いたときに、すごくうれしくなって、たっせい感が感じられました。」

「色をあわせるところがあって、いつもたいへんだったけれど、そのやり方がわかりました。いえでもやってみます。」



[高校生スタッフのレポートから]

今回初めて授業者側になり、小学生の反応がうれしいということを強く感じた。小学生に質問した時、大きな声で返事をしてくれる小学生がいて、それがあったおかげで授業が進めやすかった。

また、小学生に手を挙げて発表してもらおうとき、20人中15人ぐらいが手を挙げて発表してくれたのでとても驚いた。

最初は敬語をつかって小学生に説明しようかと考えていたが、私たちと小学生の間は4歳しか離れていないことに気づき、小学生が質問しやすいように、関西弁で話した。すると、小学生も私たちに積極的に質問してくれたので、発言のしやすい環境を作ることも大事だと思った。

さいごに

この「いきいき学習」を多くの小学生が楽しんできたようです。また、高校生も小学生の学習を支援する経験を通じて成長しました。

ご支援、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。